

特集の意図

てんかんは小児期に発症のピークの1つを迎えるが、成人期に達した患者に最適な医療をどのように提供するかがいま、大きな問題になっている。また、高齢での発病率が高いことが明らかになっており、超高齢社会の本邦においてにわかに注目を集めている。成人てんかんについて自動車の運転やトランジション、自己免疫や外科手術などの社会的、医学的に関心の高まっているトピックをとおし、いま一度考える機会としたい。

特集の構成

- 1. てんかんと運転（高木俊輔，松浦雅人）** てんかん患者の自動車運転には古くから多くの議論が行われてきた。近年改定，新設された法制度の経緯を概説したうえで，運転適性の判定指針や抗てんかん薬の内服と運転の基準をめぐる現況をまとめる。
- 2. 小児てんかん患者の成人期ケアへのトランジションの現状と課題（久保田英幹）** てんかん患者の小児期から成人期医療への移行は円滑に行われているとは言いがたい。トランジション・クリニックなどの取組みを概説し，移行を円滑に行うための体制の整備や移行プログラムについて述べる。
- 3. 成人てんかんの外科病理（宮田 元）** 海馬硬化症，限局性大脳皮質形成異常などの成人期てんかん原性脳病変について，病理画像を紹介する。外科病理診断は病態の把握や予後予測，治療方針の選択に役立つが，病変部位が必ずしも発作起始部と一致しないことなど，注意すべき点もある。
- 4. 成人てんかん外科の現況（大沢伸一郎，他）** 薬剤抵抗性のてんかん患者に対しては外科治療を検討するが，同時に精神的，心理・社会的側面からのケアも求められる。外科治療に至る検査や外科適応の条件を解説し，実際の外科手術の種類について問題点とともに述べる。
- 5. てんかんと自己免疫（松本理器，他）** 自己免疫性てんかん，自己免疫性脳炎の症状や検査方法，治療法について概説したうえで，自己免疫性てんかんに関与するとされる代表的な抗体を紹介する。また，自己免疫性てんかんにおいて多く経験する扁桃体腫大を伴う自己免疫性てんかんについての概説を加える。
- 6. 高齢者てんかんの特徴 ― 認知症との関連を含めて（石垣征一郎，他）** 超高齢社会に突入した本邦では，高齢者で発病率の高いてんかんの患者数が増加しており，てんかんにおける高次脳機能障害は認知症によるものと間違われやすく注意が必要となる。高齢者てんかんと認知症との関連を解説し，高齢者てんかんにおける薬物治療において注意すべき点を述べる。